



WING

International Friendship "WING"

代表 和田 幸夫

TEL: 090-3497-2110

発行人 小原 千種

A はじめに



10数年留学生と使用してきた交流会館が使用できないと聞かされた時、正直、何が開かれた大学なのだと素直に受け入れられなかった。

と同時に WING を潰しては昨年11月に WING の活動に共感して学生部を結成してくれた松山、大松、松井さん達に合わせる顔が無いと思った。その時ふと、私の好きな『相田みつを』の言葉「雨の日には雨の中を、風の日には風の中を」を思い出した。環境の変化を素直に受け止めて現実をしっかりと見つめれば道は拓けると。会員の人達の WING を継続して行こうとの熱い思いに触れて皆さんと共に WING の新しい方向を見出していこうと決意した次第です。(和田幸夫 記)

B 2017年度の活動総括

(1) 国際理解講座

今年度は話題性ある国のスピーカーに出会った。昨年12月に公開された二本の映画、命のビザを発給して6000人の命を救った「杉原千畝」の舞台となったリトアニアのアンドリュウ君と日本とトルコ友好125周年を記念して製作された「海難1890」トルコのエミン君が喜んでスピーカーを引き受けてくれた。まさにタイムリーだった。両君とも映画の内容は小学校で学んでおり、親日的なものも頷ける。今、建設ラッシュで沸騰中のベトナムをニャチャンさんが紹介。日本企業の地下鉄工事の大看板や、紙幣にも日本橋が描かれているなど日本との親密度の濃さに感動した。尹さんの客観的視点からの「朝鮮通信使から学ぶ日韓の友好」の話も良かったし、顔さんの社会と経済面から見る中国最新情報も面白かった。その他の講師たちの話もとても質が高かった。

年月	行事	内容
4月20日	国際理解講座	リトアニアの歴史、文化、日本との友好について クレイヴァ・アンドリュウさん
5月18日	国際理解講座	オーストラリアと日本、格差社会など雑感 スティーブンさん
6月4日	国立の子供達と留学生との交流	～クリスと歩く国立ピクニック～のイベント 谷保天満宮～滝乃川学園天使のピアノ見学など
7月20日	国際理解講座	インドネシアの歴史、文化、諸事情について ワオデさん
8月	夏休み	
9月21日	国際理解講座	「ベトナムに見る日本」とベトナムの諸事情 ニャチャンさん
10月19日	国際理解講座	トルコの歴史、文化、日本との友好の歴史など エミンさん
11月16日	国際理解講座	キルギスの歴史、文化、諸事情について ムナラさん
12月21日	忘年会	講師を引き受けてくれた馴染みの留学生達9名と総勢24名での交流イベント
1月18日	国際理解講座	近代以前の歴史(朝鮮通信使)から学ぶ日韓平和体制 尹在彦さん
2月15日	国際理解講座	社会と経済の面から見る中国の最新事情について 顔菊聲さん

(2) 国立の子供達と留学生との交流イベント「クリスと歩く国立ピクニック」

子供たちはとても喜んでいましたが留学生との交流をもう少し増やしたかった。初めての試みだったがとても良い経験になった。これからもこの様な企画をやっていききたい。

(3) WING 学生部の発足

大石代表以下5名で発足。一橋大学のサークルとして認知され11月の文化祭でバングラデッションの出店に民族服を着て支援。学生部の企画力や行動力に大いに期待したい。

C 今月の国際理解講座

日時 2018年3月15日(第3木曜日) 18:30~20:30 国際交流会館1階ホール

演題 異文化コミュニケーション

内容 タイの文化・観光地紹介や、日本との関わりについて

講師 Mrs. ヨシダ ドゥアンダオ (yoshida duangdao) タイ国籍

チャンガラセム ラチャパット大学、パヤオ大学観光学科博士課程在学

昨年5月、博士課程卒業論文を書くために来日し、夫の実家である国立市に滞在中。

今年5月にご夫妻でタイへ帰国予定。趣味はヨガ。

****** ドゥアンダオさんは日本語、タイ語などを交えてお話し下さるようで補助通訳は一橋大学留学生のチャトルンチャーワン・パーキンさんをお願いしています******

〔 補助通訳の Mr.チャトルンチャーワン・パーキンは、タイ出身。
一橋大学国費交換留学経済学部在籍。出身大学では文学部日本語専攻。 〕

D WING 総会のご案内

下記の要項で総会を行いますので会員各位のご出席をお願い致します。

日時：4月19日(第3木曜日) 19:00~21:00

場所：国立市公民館 3階講座室(中1-15-1)

議題：(1) 2017年度の活動総括(会計報告、活動報告)

(2) 5月以降の WING の活動について討議



E 「タイと日本との友好」のエピソード

3月の講座・タイ国に因み、和田幸夫代表からの寄稿文です。

~~***~***~***~***

「タイが愛する天皇陛下の魚」これは1年前の新聞記事の見出しである。天皇陛下が皇太子時代にタイを訪ねプミボン前国王にタイの食糧難を救おうとティラピアの養殖を勧め、その養殖が広がりティラピアは大衆魚となり、両国の「友好の証し」にもなっているようだ。

魚類学者でもある天皇陛下が皇太子時代に農村の食糧難を救う手として繁殖力の強いティラピアを勧めた。翌年、日本から贈られた50匹をプミボン前国王が宮殿の池で繁殖させた。1万匹まで増やし、水産試験所を通して稚魚が各地に配られ、今や国内各地約28万か所にまで広がった。養殖業者は「日本は食べてなくなる『魚』でなく魚の育て方をもたらしてくれた」と言う。昨年国王死去後は追悼番組でその実績が紹介され、有力紙も「50年を超える親交」と紹介。世界でのティラピアの生産量は鮭を超えて鯉に次いで2番目と言う。ティラピアはアジア各国に広がって中国や欧州から年4000人が研修に来ているようだ。国連食糧農業機関は「発展途上国の国々はティラピアの養殖によって、

必要最低限のタンパク質を確保してきた」と分析している。